

4の3 図画工作科学習指導案

場 所 図 工 室

指 導 者 野 島 慎 二

題材名 ギコギコクリエイター

(1) めざすコミュニケーションの姿

「見立て」ができていない友達や、表したいものを決めきれていない友達に、班やクラス全体でアドバイスする姿

(2) 本時のねらい

分割した紙片を組み合わせ、自分の表したいものを見つけることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
10	<p>1. 準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙に6～7本の線を引いて、はさみで切り分けるんだね。 ・この紙がどうなるのかな？ 	
5	<p>2. 課題をつかみ考えをもつ</p> <p>く切った紙をならべて</p> <p style="text-align: center;">ぐうぜんの形を見つけよう></p> <p>○どんな形が見えるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙片を組み合わせるんだ。 ・う～ん、見えてこないなあ。 ・並び替えると・・・、○○に見えてきたよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のゴールを明確にするために、紙片組み合わせの作例を提示する。 ・見立てのやり方の見通しをもつために、教師が演示する。 ★紙片の形を見やすくしたり、いろいろな角度から見て発想したりできるように、色画用紙の上で組み合わせる。
20	<p>3. 聴き合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で相談しても見つけられない場合は、クラス全体で考えるんだね。 ・形を見つけれなくて困ったな。 ・こうしたら○○に見えない？ ・あ！ホントだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からアドバイスを得るために、困り感を周りに伝えるように言う。 ★見立てができない子供のために、紙片をプロジェクターで映し出し、クラス全体で見立てを行う。
5	<p>4. まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友達からのアドバイスもあって、こんな形を見つけたよ。次の時間は板にのこぎりで切る線を引いていこう。</p> </div>	<p>◎班、またはクラス全体の協力も得て、自分の表したいものを見つけている。</p> <p style="text-align: right;">(作品・観察)</p>

【実践のウリ】

のこぎりで板を切って組み合わせる工作題材である。実際の材料である板をいきなり切るのではなく、まずはA5サイズの紙を分割して組み合わせることで「見立て」の練習を行った。

自分の表したいものを、すんなりと見つける子供もいれば、なかなか納得のいく形を見つけられない子供もいる。本実践は困り感のある子供を中心に周りの友達が考えを伝え、その中から自分なりの最適解・納得解を見つけることをねらいとした。

【実践例】

題材の目標の一つは、のこぎりの扱いに慣れることである。しかし、「切る」だけでは子供の創作意欲がわからないので、切ったものに意味をもたせて木片をつなぐことが本題材の要点と考えた。

本時は、無意識に分割した形を組み合わせ、動物や人間など具象的な形を見立てる造形活動を行った。計画が無いまま、いきなり板を切ることは子供にとってハードルが高く、失敗を恐れて思い切り製作できないことが予想されるので、練習として紙を使って面を分割したり、組み合わせたりすることで、自分の表したいものを見つけられるようにした。

手立てとしては、紙片操作の時に色画用紙の台紙を敷くことにした。紙片が見やすくなり、かつ台紙を回転させることができるからである。そうすることで見立てを行いやすくすることができた。また、見立てができず困っている友達や自分の見立てに満足できていない友達に、班やクラス全体でアドバイスすることで自分の表したいことを見つけられるようにした。

【成果】

20名ほどの子供は自力で、10名ほどの子供は友達のアドバイスを得て、全員が表したいものを決定することができていた。

【課題】

困り感のある子供が何について困っているかを友達に伝えられず、何についてどのようなアドバイスをすればよいか分からない子供もいた。

【資料】



資料1 見立てを行う子供の様子



資料2 全体でアドバイスする姿

3の3 図画工作科学学習指導案

場 所 3の3教室
指 導 者 中川 佑紀

題材名 自分が魚にへんしん ～スチレン版画～

(1) めざすコミュニケーションの姿

自分や友達の「自分」にぴったりの模様について多様な考えを出し合う姿

(2) 本時のねらい

「自分」にぴったりの模様になるように考えることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
5	<p>1. 題材と出合い 本時の課題をつかむ</p> <p>○「自分」といえば？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢は、お医者さんだよ。 ・得意なことは、泳ぐことだよ。 ・好きなもの(教科)は、算数だよ。 <p><「自分」にぴったりの魚のもようは?></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の土台で交流するために、「自分」にぴったりの魚の模様を表現することを明確にする。 ・将来の夢・好きなもの・得意なことなどを視覚的に児童が把握できるように、板書に位置付ける。
10	<p>2. 「自分」にぴったりの模様を考える</p> <p>○「自分」にぴったりの模様は、どんな模様？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こっちの魚の模様の方が先生にぴったりだよ。だって、楽しそうなイメージだからだよ。 ・私は、どんな丸の大きさにしようかな。 ・人と人をつなぐイメージだから、同じ大きさの丸をつなげてみよう。 ・だんだん大きな丸にしたよ。夢がどんどん大きくなっていくからだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形の大きさや並べ方・重ね方だけでもイメージが変わることに気付かせるために、形を丸のみに限定する。 ★教師の魚をもとに考えることで、「自分」らしさと模様をつなげて表現することを理解し、交流できるようにする。
15	<p>3. もっと「自分」にぴったりの模様になるように交流し、考える</p> <p>○もっと先生にぴったりの模様にするにはどうしたらいいかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな大きさを弾むように表したら、図工の楽しいイメージに近づきそうだよ。 ・イメージに合う表し方が見つかったよ。 ・それ、いいね。かいてみたら、「自分」にぴったりの魚の模様になったよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ★友達の「自分」にぴったりの模様を追求しながら対話ができるように、視覚的に整理されたワークシートを机上に置いて交流する。 ◎「自分」にぴったりの模様になるように考えている。(発言・ワークシート)
10	<p>4. 本時のふりかえりをする</p> <p>○どんな模様になったかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめと今では、こんなに変わったよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「自分」にぴったりの魚のもようは、夢・好き・得意などからイメージをふくらませたもようだよ。友達と交流したら、もっとぴったり合うもようになったよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は、魚の体の形を考えるんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ★交流前と交流後の模様を比較してふり返ることで、コミュニケーションの有効性に気付かせる。

【実践のウリ】

本題材までに夢や自分らしさについて教科横断的に追求した。版のテーマには、将来の夢・好きなこと・得意なことなどを自分らしさとし、「自分」にぴったり合う版の模様を考えた。スチレン版画は、版を作ることが容易なので、イメージを表現していくことができる。また、スチレンボードは、洗うことで繰り返し刷ることができるので、いろいろな色で試したり、版の上で混色したりして、自分にぴったりの色を工夫することができる題材である。

【実践例】

共通の土台で交流するために、「自分」にぴったりの魚の模様を表現するということを明確にした。導入では、将来の夢・好きなこと・得意なことなどを視覚的に児童が把握できるように、板書に位置付けていった。

次に、教師の将来の夢「図工が好きな人を増やすこと」・好きなこと「わくわくすること」・得意なこと「新しいアイデアを考えること」を示した。この三点をもとに教師にぴったり合う魚の模様について考えることにした。並び方に着目させるために、丸のみで表現した。そこで、「先生にぴったり合う魚の模様はどちらかな？」と問うた。くねくね模様を選んだ子供が圧倒的に多く、まっすぐ模様を選んだ子供は一人だった。くねくね模様を選んだ理由は、「図工は自由な感じがするから。」「わくわくして楽しそうだから。」などであった。その答えに何人もの子供がうなずいていた。しかし、まっすぐ模様を選んだ一人が、「先生は姿勢がまっすぐ前を向いているから。」と言う言葉から、「感動することが多いから、まっすぐな模様がぴったり。」と、話していた。この姿から、イメージを言語化して共有することで、多様な考えがうまれることがわかる。

そのあとに、「自分」にぴったり合う模様を丸のみで表現した。それぞれのイメージが広がり、多様な表現がうまれたときに、「この魚ももっと先生にぴったり合う模様にしたい！どうしたらいいかな？」と投げかけた。すると、数・大きさ・重ね方・並べ方をかえるという表現の工夫に気付いていた。そこから、どんどん「自分」にぴったりの魚の模様になるように、表現していった。

【成果】

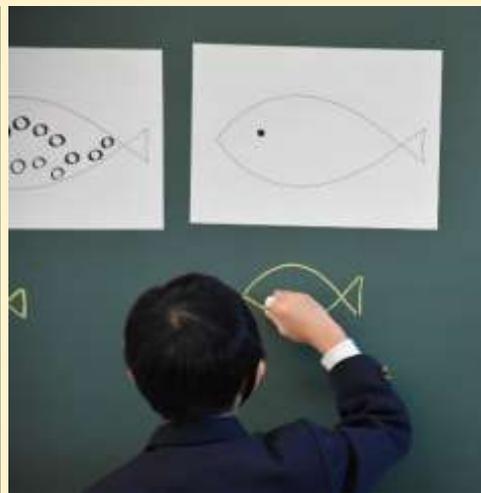
模様を丸のみに限定して教師の例示をもとに全体交流することで、数・大きさ・重ね方・ならべ方の工夫に気付かせることができた。また、作品を交流する時間を設けたことで、多様な考えにふれ、新しい表現方法に気付くことができていた。

【課題】

個々が机上の作品を見合う交流だけでは、思いを聴き合うことが難しいと感じた。作品を見ながら聴き合う場の工夫が必要である。

【資料】

資料1 視点を明確にするための比較



資料2 多様な表現を交流